

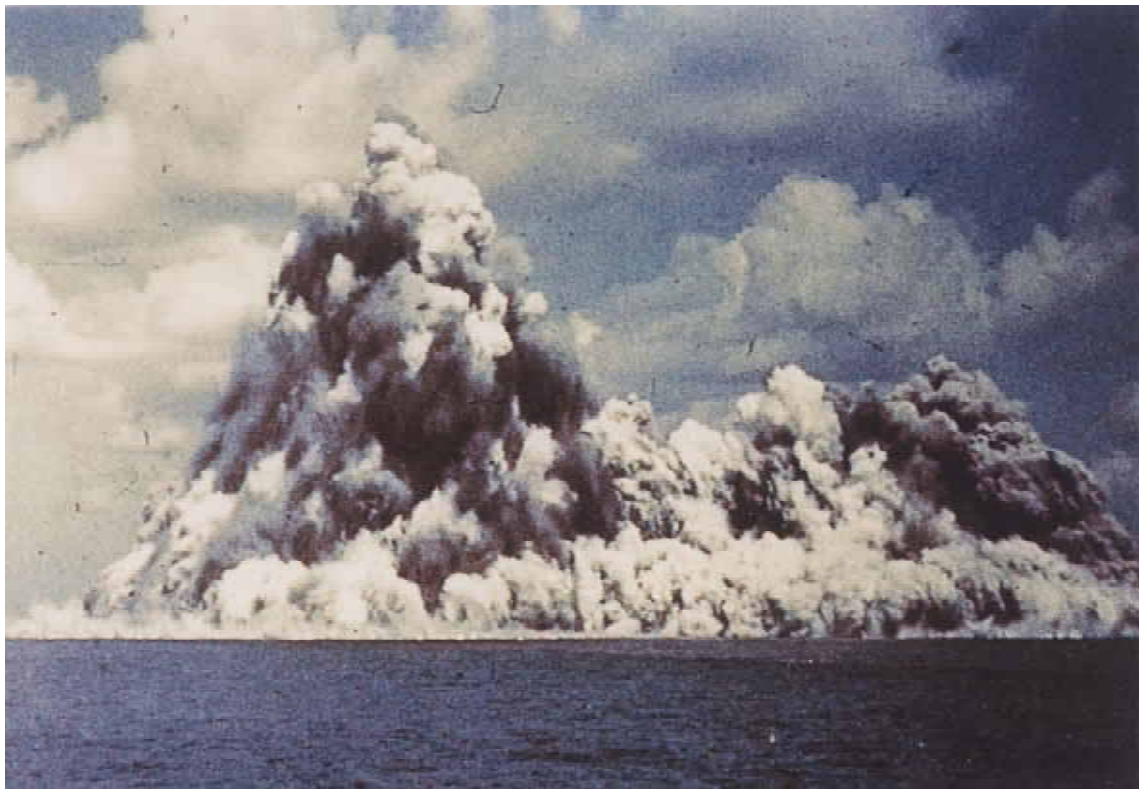
たところ、何か旗らしいものが振られているのを発見、驚いて当直員に大型の望遠鏡を据えさせ、よく見たところどうも人間がいるらしい、ということで船を島に近づけたところ、人間が動いているのが見え、砂浜には漁船が座礁しているのも見えたので、救命ボートを降ろして無事全員救助しました。

座礁して1週間目だそうでしたが、全員元気で無人の旧観測所に寝泊まりしており、食料は座礁した自船から運び込み、生活には不自由しなかったばかりか、旧観測所には卓球施設から、マジャン卓一式揃っていたそうです。

悲劇を述べます。

右図の赤字が「明神礁」で、ここで大きな悲劇がありました。

我国がやっと独立国日本に成ったばかりの



1952年(昭和27年)9月17日、 $31^{\circ}55.1'N$ 、 $140^{\circ}1.3'E$ の海域、ベヨネズ列岩の東10km位の海域ですが、その付近で操業中の焼津港所属の「第十一明神丸」が海底大爆発を目撃、直ちに海上保安庁に打電し、知らせた。このため第一発見者である船名に基づき「明神礁」と命名された。

海上保安庁は直ちに巡視船を派遣、米国、旧ソ連、中国、韓国、フィリピン等の船舶も出沒してきた。これは当時未だ経済水域宣言がなかつたので、この海域は公海扱いであり、もし海底爆発により新島を形成した場合、それを第一に発見するとその国が領有宣言が出来るので、それを狙ってやって来たわけで、事実これまでもこの海域で海底爆発があり、